



2011年3月28日13時00分
独立行政法人 放射線医学総合研究所

被ばくした作業員が28日正午頃退院しました

独立行政法人 放射線医学総合研究所(理事長：米倉 義晴)

放射線医学総合研究所(以下、放医研)は、東京電力福島第1原子力発電所3号機での作業中に被ばくされた協力会社の作業員3名を3月25日の午後に受け入れ、被ばくに関する検査等を行うために入院して頂いておりましたが、本日正午頃、退院されました。

このうち2名の方は、くるぶしより下を局所被ばくされ、皮膚の被ばく推定線量は、当初2～6シーベルトと見積もられていましたが、分析を進めた結果、2～3シーベルトに下方修正されました。現時点で足の皮膚等に著明な変化は認められず、放射性物質による汚染の程度は27日時点よりもさらに低下してきています。

3名について、内部被ばくについては引き続き評価を行っていますが、被ばくによる健康への影響は無いものと思われまます。その他の全身状態に問題はありません。

足に局所被ばくのあった2名の方は、今後数日後に放医研を再受診し、経過観察を行う予定です。